

会社概要

(2024年9月30日現在)

社名 トーカロ株式会社 TOCALO Co.,Ltd.
設立 1951年7月
所在地(本社) 神戸市中央区港島南町六丁目4番4号
資本金 26億5,882万3千円
従業員数 単独 939名 連結 1,485名

【グループ会社】

日本 日本コーティングセンター株式会社
神奈川県座間市
日本 株式会社寺田事務所
福岡県中間市
中国 東華隆(広州)表面改質技術有限公司
広東省広州市
中国 東質隆(昆山)電子有限公司
江蘇省昆山市
台湾 漢泰国際電子股份有限公司
台南市
アメリカ TOCALO USA, Inc.
カリフォルニア州
インドネシア PT. TOCALO Surface Technology Indonesia
西ジャワ州カラワン県
タイ TOCALO Surface Technology (Thailand) Co., Ltd.
チョンブリ県

役員

(2024年9月30日現在)

代表取締役社長 三船法行
代表取締役社長執行役員 小林和也
取締役副社長執行役員 黒木信之志
取締役常務執行役員 後藤浩幸
取締役常務執行役員 吉積隆利
取締役(社外) 鎌倉光子
取締役(社外) 瀧原圭子
取締役(社外) 佐藤陽子
取締役(社外) 富田和俊
監査役(常勤) 進田英博
監査役(常勤) 浜田博介
監査役(社外) 吉田敏彦
監査役(社外) 加地則彦
常務執行役員 千水祐二
執行役員 水相津弘夫
執行役員 中井勝紀
執行役員 中高平剛樹
執行役員 高濱口 竜 哉
執行役員 村田 裕
執行役員 寺谷 武

株式の状況

(2024年9月30日現在)

発行可能株式総数 160,000,000株
発行済株式の総数 61,200,000株
(内、自己株式1,744,662株)

単元株式数 100株
株主数 13,446名
大株主

Table with 2 columns: 株主名, 持株数(千株). Lists major shareholders like 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (10,374), 株式会社日本カストディ銀行 (6,920), etc.

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日 定時株主総会については3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場
公告方法 電子公告
公告掲載URL https://www.tocalo.co.jp/
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載いたします。)

【ご注意】

- 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

証券コード:3433(東証プライム市場)



人と自然の豊かな未来に貢献する

TOCALO REPORT 74
—中間報告書—
2024年4月1日▶2024年9月30日



代表取締役 社長執行役員 **小林 和也**

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第74期中間期(2024年4月1日から2024年9月30日まで)の事業の状況につきまして、ご報告申し上げます。

● 当中間期の連結業績について

当社グループを取り巻く事業環境は、経済活動の正常化による企業の設備投資の継続などから緩やかな回復基調で推移しました。その一方で、不安定な海外情勢の継続、円安の長期化に伴う原材料価格やエネルギーコストの高騰など、依然として先行きが見通しづらい状況が続いております。

このような状況のもと、生成AI・データセンターなどへの需要増を背景に好調となった半導体分野をはじめ、鉄鋼分野や産業機械、

紙・パルプ、フィルム、エネルギーなどの各分野においても、新規成膜プロセスの開発や意欲的な受注活動を推進したことにより、当社グループの業績は、期初予想に対し総じて順調に推移いたしました。

その結果、当中間期における当社グループの連結業績は、売上高が前年同期比28億91百万円(12.6%)増の258億63百万円、営業利益が同10億87百万円(25.3%)増の53億83百万円、経常利益は同9億30百万円(20.3%)増の55億20百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は同5億70百万円(19.1%)増の35億56百万円となりました。

● 今後の業績見通し、舵取りについて

米中対立による輸出規制強化や技術競争の激化、不安定な国際情勢による原材料・エネルギー価格の高騰など、先行き不透明な

▶▶ To Our Shareholders

情勢は当面継続すると想定しておりますが、中期経営計画で掲げた半導体・FPD、環境・エネルギーや新事業領域などの市場に対して、新規成膜プロセス開発や顧客のニーズを見据えた設備投資ならびに人財育成を図ることで成長戦略を実現させてまいります。

半導体分野では、今後も一層のデジタル化の進展等により、さらなる製造装置需要の高まりに備えた生産能力の増強や微細化に対応した技術開発を進めております。

環境・エネルギー分野では、バイオマス・水力・洋上風力などの発電設備や電力を蓄える二次電池への用途拡大、さらに医療・農業といった新事業領域においても、新たな顧客ニーズを創出するための取り組みに注力しております。

引き続き、温室効果ガスの排出量抑制、サプライチェーンの連携強化、人的資本投資など、サステナブルな社会の実現を目指したESG重視の経営を行い、100年企業を目指し、持続的成長と企業価値向上を推進してまいります。

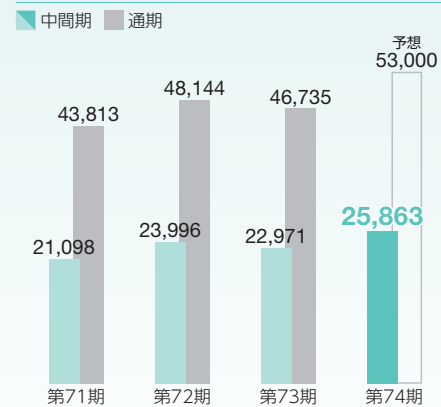
連結財務ハイライト

Financial Highlights

前年同期比で増収増益となり、通期業績予想の達成に向けて順調に推移しています

売上高

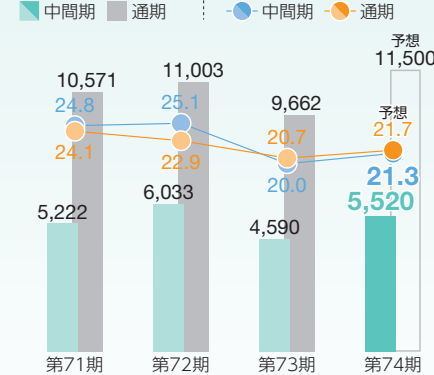
(単位:百万円)



経常利益・経常利益率

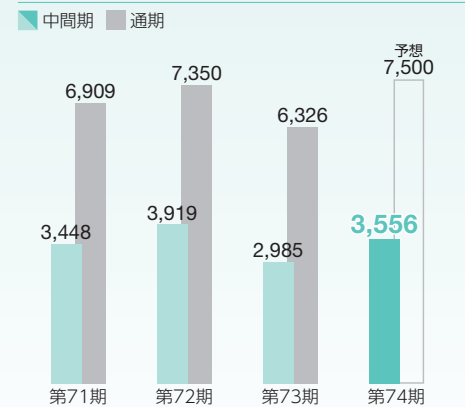
[経常利益] (単位:百万円)

[経常利益率] (単位:%)



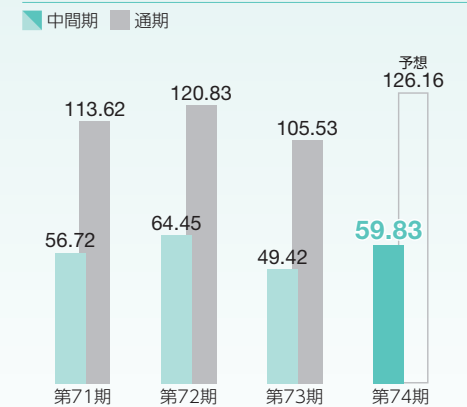
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



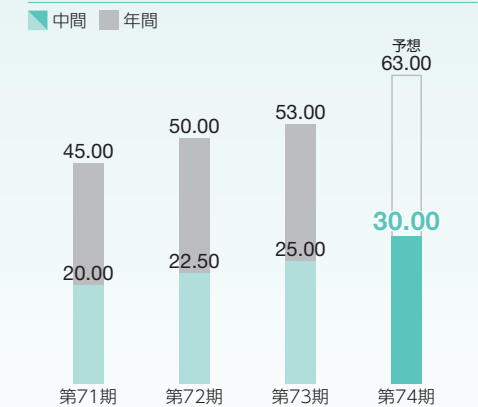
1株当たり当期純利益

(単位:円)



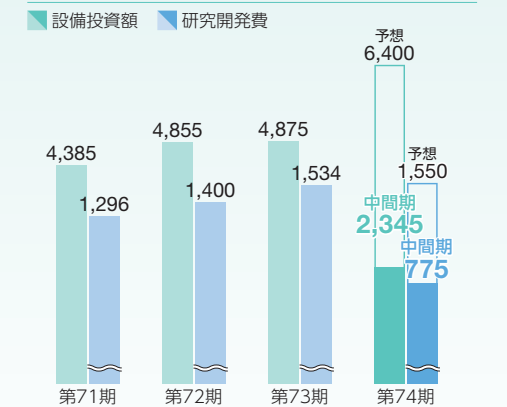
1株当たり配当金

(単位:円)



設備投資額・研究開発費

(単位:百万円)

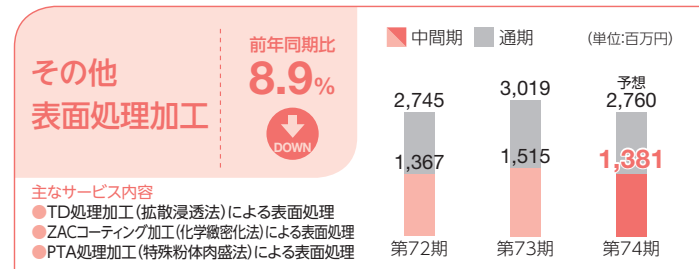
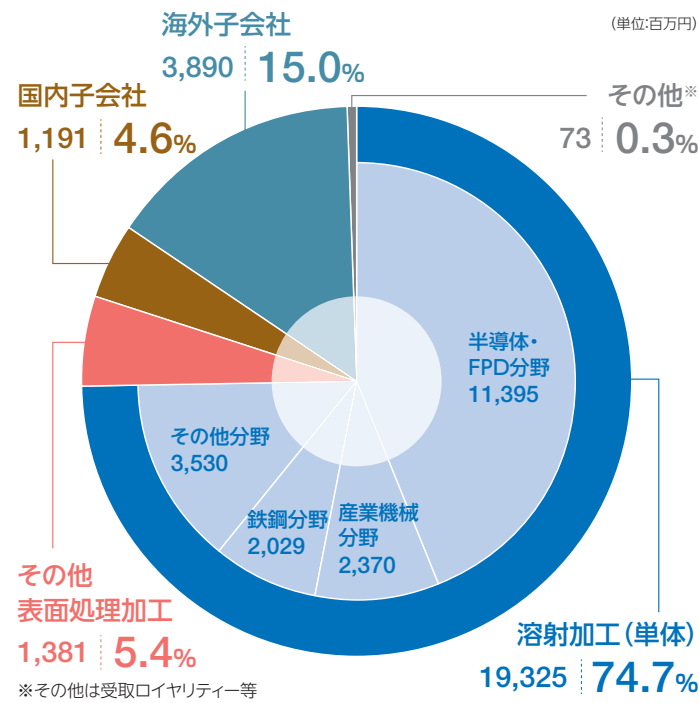


1 (注)通期業績予想は、2024年10月31日に上方修正いたしました。

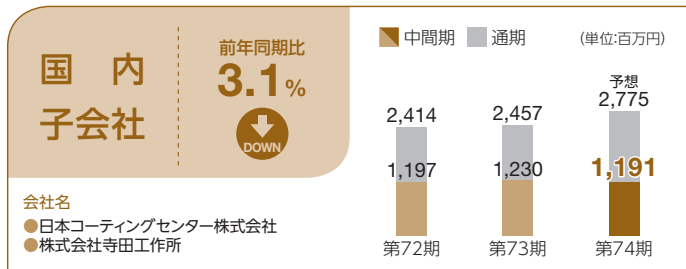
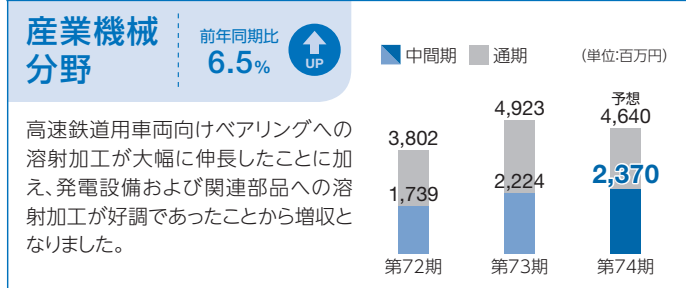
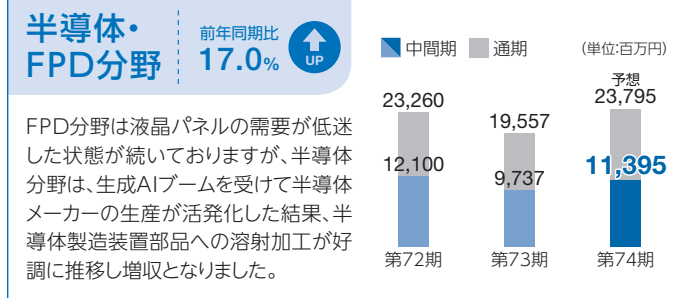
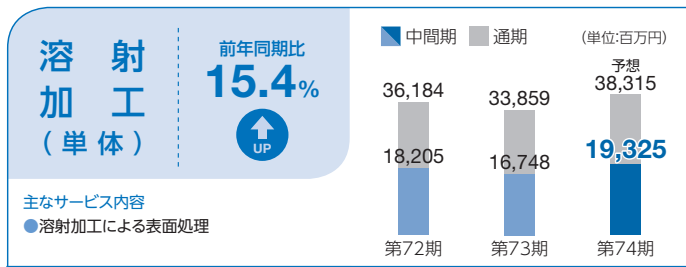
私たちの事業

▶▶ Business Field

第74期 中間期
売上高 **25,863**百万円

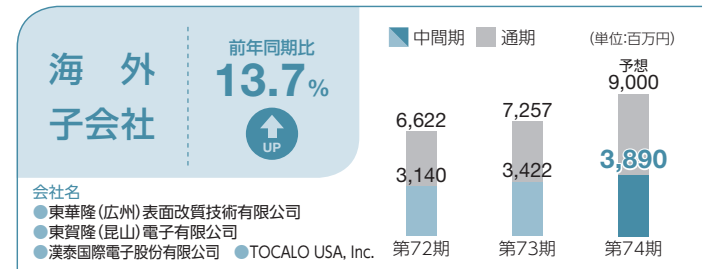
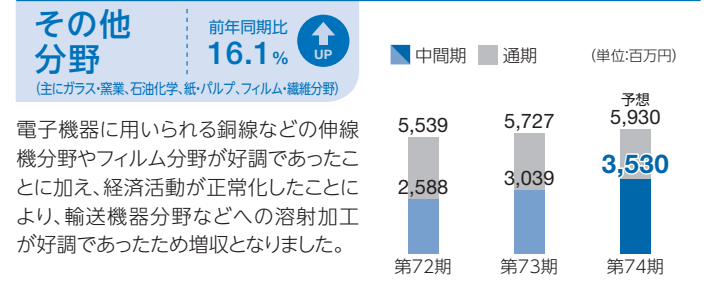
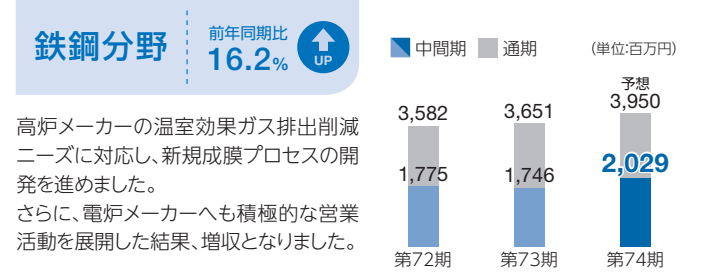


溶射加工(単体)、国内子会社、海外子会社以外のセグメントについては、前期まで好調であった農業機械部品向け加工が在庫調整の影響で減収となり、売上高の合計は前年同期比1億34百万円(8.9%)減の13億81百万円、セグメント利益(経常利益)の合計は同69百万円(26.7%)減の1億90百万円となりました。



国内子会社(日本コーティングセンター株式会社)は、自動車生産停滞の影響が続き、主力の切削工具関係の受注が伸びず、当セグメントの売上高は前年同期比38百万円(3.1%)減の11億91百万円、セグメント利益(経常利益)は同1億27百万円(44.7%)減の1億57百万円となりました。なお、本年8月に子会社化した株式会社寺田工作所については、当中間期において貸借対照表のみを連結しているため、当セグメントの業績に与える影響はありません。

半導体・FPD(フラットパネルディスプレイ)分野の売上は、期初予想をやや上回るペースで回復し、産業機械、鉄鋼、その他の分野も総じて堅調に推移したため、当セグメントの売上高は前年同期比25億77百万円(15.4%)増の193億25百万円、セグメント利益(経常利益)は同11億53百万円(36.4%)増の43億24百万円となりました。



海外子会社は、特に中国子会社2社が売上を伸ばし、円安による為替影響も加わり、当セグメントの売上高は前年同期比4億67百万円(13.7%)増の38億90百万円、セグメント利益(経常利益)は同3億23百万円(36.5%)増の12億11百万円となりました。

WEBサイトのご案内

当社のWEBサイトでは、当社の事業内容をはじめ、株主・投資家の皆様に企業情報や財務情報について、積極的に情報開示を行っておりますので、是非ご覧ください。

●トップページ



こちらからアクセスいただけます ▶▶

<https://www.tocalo.co.jp/>



●統合報告書



こちらからアクセスいただけます ▶▶

<https://pdf.irpocket.com/C3433/n85z/wWmE/T2P5.pdf>



TOCALO's Sustainability



トーカーの今後の成長に向けて

『人と自然の豊かな未来に貢献する』を
ビジョンとして掲げESG経営を推進してまいります。

TOPIC

1

CDPの気候変動レポートで「Bスコア」を取得

当社はCDPの気候変動レポート2023においてBスコアの認定を受けました。
CDPとは、持続的な経済の実現を目指す国際的な非営利団体であり、各企業の環境問題への取り組みおよびそれらの開示情報を分析し、環境対策レベルをA～Dの8段階で評価します。

当社はScope1,2に加え、Scope3においても温室効果ガス排出量の把握に向けた取り組みを進めると共に、東京工場鈴身事業所と神戸工場に太陽光パネルの設置を進め、使用電力量削減の取り組みを行いました。その結果、昨年のDスコアから大きく4段階改善し、Bスコアを取得しました。

事業を通じて、お客様の省資源化、省力化、環境負荷低減への貢献を目指し、できることを積み重ねていくことで地球環境負荷低減に努めていきます。

詳しい情報はこちら

<https://pdf.irpocket.com/C3433/KNIO/HsBD/itTy.pdf>



Scope1,2,3とは自社および取引先を含めた直接・間接的に排出された温室効果ガスを合計したサプライチェーン排出量です。

TOPIC

2

「えるぼし認定」最高位の3つ星を取得

えるぼし認定は、女性活躍推進法に基づく行動計画の策定と取り組み状況が優良な企業について、厚生労働大臣が認定を行う制度です。女性が採用されてから仕事をしていく上で、能力を発揮しやすい職場環境であるかという観点から、5つの評価項目「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の基準に応じて3段階で評価されます。当社は5つの認定基準を全て満たし、最高位の3つ星を取得いたしました。今後も従業員が個性と能力を発揮してイキイキと働くことができる環境を整備していきます。



詳しい情報はこちら

<https://www.tocalo.co.jp/news/detail/?relyear=2024&id=20240617-02b028ed>



TOPIC

3

株式会社寺田工作所の株式を取得し 経営基盤の強化を図ります

今年の8月に寺田工作所の全株式を取得しました。
寺田工作所(本社：福岡県中間市)は、多様な素材を用いて精密部品を製造することのできる優れた機械加工技術を有しており、それを当社の表面改質技術に組み合わせることで、お客様への提供価値のさらなる向上を図っていきます。



詳しい情報はこちら

<https://pdf.irpocket.com/C3433/Rhyn/Wu50/sELT.pdf>

